

(別紙4)

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月7日

【評価実施概要】

事業所番号	3090100151		
法人名	社会福祉法人寿敬会		
事業所名	第1グループホーム ハルジオン		
所在地	〒649-6323 和歌山県和歌山市井ノ口302-5 (電話) 073-477-7600		
評価機関名	社団法人日本社会福祉士会和歌山県支部第三者評価委員会		
所在地			
訪問調査日	平成21年11月6日	評価確定日	平成22年1月4日

【情報提供票より】 (21年10月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 19年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造陸屋根平屋 造り
	1階建ての ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> (200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="checkbox"/>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要 (10月16日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1		要介護2		1	
要介護3	4	要介護4		3	
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 84歳	最低	72歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中谷病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

立地は田園地帯の一角にあり、幹線道路沿いに面しています。そして、建物としてはグループホームの専用棟として新築され、機能的で温かみがあり、同法人が運営するデイサービスセンター、小規模多機能型居宅介護事業所も併設されていて、地域における認知症を初めとするケアの社会化の拠点としての役割も担っている印象を受けます。また、そこに集う利用者の方々との交流もあり、グループホーム付近には商店などもあって、利用者がそこへ出向くことで、地域に溶け込む機会となっています。また、法人全体の機能として医療連携が充実しています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) まだ開設してそれほど経っていないこともあり、試行錯誤で取り組んでいるところがあります。しかし、恵まれた設備と環境を活かしながら、この初めての自己評価を職員自らが地域密着型サービスの理念に沿ったケアが実践できているかを気づく機会になることを期待します。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に一度開催されていて、自治会長、地域包括支援センター職員、入居者家族代表等で構成されています。この機会に地域での行事参加についての情報交換や、家族からダイレクトに意見が聴ける有効な機会としています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	利用者との対話の時間を日常業務の中で出来るだけ活かせるように努めています。また、利用者家族への連絡としては、毎月1度発行している「ハルジオン通信」を通して日々の生活状況を知らせるようにしています。これは、手作りで温かみのあるものとなっています。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	運営推進会議に自治会長などが参加するなど、地域の理解もあり、地元商店など利用者と共に日々の買物なども普通の事として行なっています。また、併設する事業所などの利用者との交流もあります。今後は、運営推進会議の意見などを参考にしながら、地域の方々が気軽にグループホームに来ていただけるような、具体的な連携を強化していくことを期待します。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前入居されていた方の口癖である「人生のオアシス」というフレーズから発想を展開して、地域での「憩いの場」を目指すという意味を込めて「共に笑顔で共に元気、人生のオアシス」という理念をつくりあげている。	○	自らがつくりあげた理念の意味を地域密着型サービスとしてどう活かすのかを、今後職員同士で議論しながら深めて行くことを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をフロア内に掲示し、理念に基づいた対応が出来るように心がけている		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域密着型複合施設ハルジオンの一員として自治会活動に参加している。また、小学校の運動会等にも参加し交流を図っている。	○	地域の交流を自治会活動の中で行なわれているイベントへの参加に留まらず、共に地域で暮らす一員として、地域で必要とされる活動や役割は何かを考え取り組んでいくことを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての自己評価及び外部評価であるが、その意義を充分理解できるよう周知している。	○	初めての改善計画作成となりますが、職員全体の総意で質の高いサービスを具体的に実践できることを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会長、地域包括支援センター職員、入居者家族代表等で構成されている	○	運営推進会議は開催頻度や構成メンバーともに充実しています。この会議が入居者家族代表からダイレクトに意見が聴けるよい機会となっていますので、加えて他のメンバーからもより具体的な提案ができる会議運営ができるよう期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	和歌山市の担当課と随時、相談等を行い、サービスの質の向上に努めている	○	運営推進会議に参加する民生委員や自治会、地域包括支援センターなどの機能を活用しながら、できるだけ市町村との連携を強めていくことを期待します。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一度、「ハルジオン通信」を通して日々の生活状況を伝えている		手作りで温かみのある職員手製の「ハルジオン通信」はグループホームと家族の思いをつなぐ最善のアイテムとなっています。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された時には声かけをし、不満や苦情がないか確認している	○	家族への声かけでは、事業所以外の方々に意見や苦情を表せる機会（たとえば利用しやすい意見箱の設置）や場、があることを繰り返し説明しながら、家族同士でも意見が出し合える場をつくっていく事が期待されます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者とご家族が安心していただけるように、馴染みの関係作りに配慮している	○	職員の異動がある際には、新に関わる職員と一緒に利用者のケアを行なう時間をとりながら、急に人的な変化がないようにしていますが、管理も入居者の暮らしに大きな影響を与える以上、繰り返される異動は控えめにすることを期待します

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修会には積極的に参加している。また、外部研修については職員の意欲を尊重し、極力研修に参加できるように努めている	○	法人としては大きな規模であり、内部の研修も充実しています。また、外部の研修にも積極的に参加できるよう取り組んでいます。今後は、職員に対してスーパービジョンを実践できる体制を整備していくことを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や外部研修を通じての交流があり、情報交換・相互訪問等を通じて、サービスの質の向上に努めている。		和歌山県内のグループホーム職員などで組織する職能団体を通じて同業者との交流の機会を持っています。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心し、納得してサービスが利用できるよう、ご家族や関係者の方と一緒に何度でも見学していただけるように配慮している	○	本人やそのご家族との話し合いは充分に行なっていて、双方が納得してサービス利用が開始できるように配慮していますが、今後は本人が馴染みながら生活していけるヒントをご自宅や地域への訪問などを通して共に探していくことを期待します。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が入居者を自分の家族であると考えて行動していけるような関係作りに努めている。	○	本人が自分の家族であると考えて行動すると、専門職としての冷静さを見失うこともあります。喜怒哀楽を共にし、温かく支えあう姿勢と共に、専門職としての価値を大切にしながら行動することを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの希望や意欲等の把握に努めている。	○	入居者一人ひとりの希望や意欲等の把握には、本人のこれまでの人生を物語として理解できるかが問われます。本人がなぜ、今このように思い、行動しているのかを理解するためにアセスメントをより深めることを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所開始時に、本人、家族と話し合っ情報て情報を収集している。日常生活の中で職員が気づいた事などを話し合い、情報を共有しながら介護計画を作成している。	○	介護計画は様々な情報共有をしながら職員間の共同作業で作成されています。今後は、この介護計画をより具体的で実行可能な内容にして、全ての職員がその計画に則って均一なケアが行なえる事を期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了前に本人や家族の要望を取り入れながら、見直しを行なうようにしている。状態に変化が生じた場合には、早急な見直しの検討を行なっている。		6ヶ月を目安にしながら、日々のケア実践を評価しつつ新たな介護計画を作成しています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の希望に応じて外出や通院の支援を行っている。また、家族の状況等に応じて送迎や付き添いを行なうなどの柔軟な対応をしている。		通所介護や小規模多機能型居宅介護事業所なども併設されていることもあり、共同で畑を耕したりしながら様々な交流の場を提供できている

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医療期間を受診しているが、本人や家族の希望があれば入居前のかかりつけ医の受診継続も可能である。		協力医療機関の受診、往診もあって十分な受診支援が行えていて、皮膚科や歯科へも適切に受信支援できています。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方に関しては、本人・家族の意向に沿った対応が出来る旨説明を事前に行なっている。	○	協力医療機関との連携のもと具体的な対応もできると思われれます。今後は事前に行なう説明だけでなく、重度化や終末期に向けた方針をその都度更新し、そのことが全てのスタッフに共有される職場の風土作りが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳が守られるように声かけや対応に注意しながら関わっている。個人情報の取扱についても注意しながら管理を行っている。	○	法人内で行なわれている守秘義務に関する研修に参加し個人情報の取扱に十分に配慮していますが、全てのスタッフがそのことを業務に確実に活かせることが期待されます
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、利用者一人ひとりのペースで、希望に沿った支援が出来るように努めている。	○	現在取組まれている以上に、一人ひとりのペースを守るため、日々の中で職員同士が工夫していくことを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、利用者の希望を反映した献立作りに努めている。一人ひとりの能力に応じて、食事の準備や盛り付け、後片付け等を一緒に行なっている。	○	食事の献立づくりについても問題なく、能力に応じて買出しから後片付けまで手伝ってもらっているなどしています。また、適切な介護技術ですので、食事に対する意欲が高まるようなケアの方法を職員同士で確認していくことを期待します。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴を提供している。入浴拒否のある利用者には時間を空けて声かけをしたり、促し方に工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を畳んでいただいたり、テーブルを拭いていただく等、一人ひとりの役割を持っていただけるよう支援している。	○	利用者個々の性格を把握することで興味や関心ごとを引き出せるように努力されています。しかし、職員だけが用意するのではなく、地域の資源を活用するなどして選択できる場面作りができるように期待します。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じた年間行事の取り組みを実施し、外出の機会を設けたり、買い物日や外食日等を設け、利用者の体調や気分に応じた支援を行っている。		外食やドライブなど日常的に外出出来るように取り組んでいます。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は常に利用者を見守り支援し、日中は玄関等は施錠せずに自由に出入りできるように取り組んでいる		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域密着型複合施設ハルジオンでの消防訓練等に参加している	○	法人全体としても災害対策に取り組んでいますが、今後は運営推進会議や自治体への参加を通して地域の人々との積極的な交流を図り、地域との共同の避難訓練を実施していくことを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスについては一人ひとりの状態に応じた食事を提供している。食事摂取量、水分摂取量は記録しており、職員が情報を共有できるよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花を飾ったり、大寒時にはゆずを入れて入浴していただいたりし、季節感を採り入れている。利用者が作成した作品の展示スペースがある。テラスからは日が差し込んでくる共有の空間がある。		共有の空間はテラスから日の光が入り温かく、しかも床や壁にも和の装飾があり、入居者にとってはとても落ち着いた場所となっています。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談した上で、馴染みの物を持ってきて頂き、居心地よく過ごせるように配慮している。	○	入居された後でも、ご自宅へご本人と一緒に出向くなどして馴染みのものを一緒に探すこともいいでしょう。今後も何が利用者にとって居心地が良いのかを共に考えて行くことを期待します。

※  は、重点項目。